

ワーキング部会報告書

第2部会	B班	開催日	平成26年8月26日(火)	会場	さいわいプラザ6階 大会議室					
テーマ	保育ニーズを支えるには ~今後10年の0・1歳の保育ニーズの担い手作り~									
内 容										
1 「3歳までは家庭」が理想だけど… ⇒預けなければならない場合、「子どもにとって理想」「親・子が安心できる」保育環境とは ①「保育環境」の質の向上 ・「家庭的(少人数)」な小さい集団での保育⇒「目」と「心」が届く保育環境 ・職員体制の充実(顔が見える担当制) ②「保育士(人材)」の質の向上 ・親や子どもの思いを受けとめられる「(包容力のある)プロ」の保育士の養成 ・経験不足を補うため、地域で育てる(養成校↔園と協働の研修ほか)システム ・保育士の社会的地位及び待遇改善(給与の向上、作成書類の精査ほか) ③「親」と「保育士」の信頼関係の構築 ・「意識の差」は当たり前だけど…正直に、少しずつ。親にも「預ける覚悟」が必要。 ・親と保育士の「心のゆとり」 ・親への積極的な情報発信 ⇒「環境の質」「プロセスの質」「成果の質」の向上、DVDの貸出、壁新聞ほか工夫										
2 安定的に小規模保育事業を運営するために検討すべき事項 ①子どもにとって理想的な「家庭的」の定義 ②保育士の人材派遣システムの構築⇒ファミサポやシルバーパートナーセンターとの連携、新設ほか ③家庭的保育者・補助者(無資格者)の質の確保 ⇒研修受講義務だけでなく、実務経験や子育て経験、市認定基準の設定など附す条件を検討										
3 その他「子どもにとってのよりよい保育環境整備」のために検討すべき事項 ①子育てを楽しんでもらうためにできる支援のあり方 ⇒子どものドラマティックな成長を間近に見られる「幼児期」はあつという間。親にも子育てを楽しんでほしい。 ②「産む前支援」に係る人材教育のあり方 ③「障害児とその親」がストレスなく一緒にいられるような支援のあり方										